

## 年長組

### 「色をつくろう！色の変化をコントロールしよう！」

～園庭の色マスター から 色づくりマスターへ！ 色の変化コントロールの探究活動～

年長組

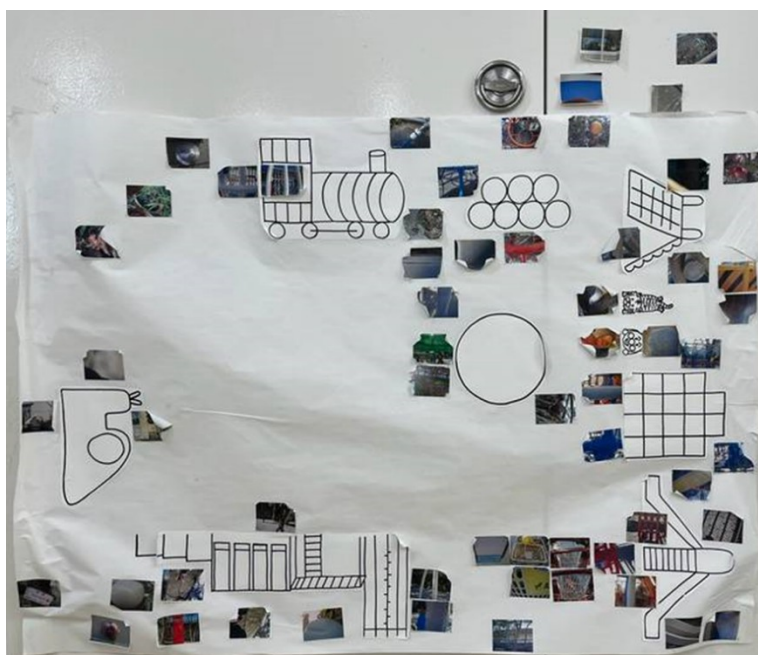
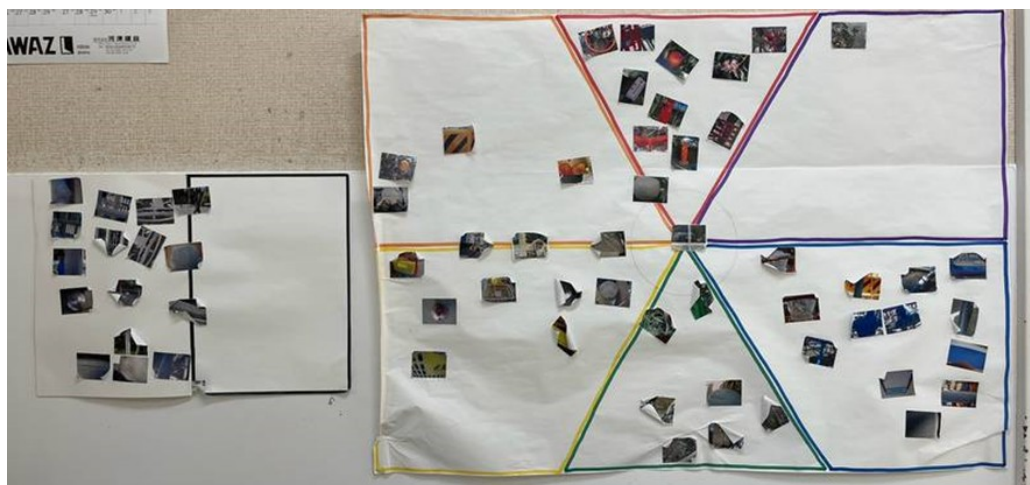
かせい組 26名 (男児16名・女児10名) 教諭I 3年目

もくせい組 27名 (男児16名・女児11名) 教諭K 3年目

学年フリー教諭M 27年目・教諭N 30年目

#### 【すくわくプログラム開始前に「めざせ！園庭の色マスター」の振り返り・共有】

昨年度の経験を踏まえて、すくわくプログラムに取り組んでいくために、年長組からの転入・編入児もいることも考慮して、昨年度、幼児たちが作製した「園庭マップ」や「色分け表」を見合いながら、振り返りと共有を行いました。



年長組では、昨年度の成果と、今年度1～2学期の経験を踏まえ、色への経験値だけではなく、探求を進めていく中で学年の「失敗を恐れる」「失敗からの切り替えが難しい」傾向にも着目し、集大成に向けて敢えて「うまくいかない経験」も共有しながら、そこからもさらに前向きに探究を続けられるような活動をめざすこととしました。

【年長組の活動すくわくプログラム活動展開予定】

- 1) どの色を合わせたら何色になるのかを知る
- 2) どの色をどのくらいの量ずつ混ぜるとつくりたい色になるのか試す
- 3) 予想した通りになることを喜ぶ
- 4) 予想した通りにならない（黒・金銀銅づくり）ことも次の方策を前向きに考える

年長組) 「満足 から うまくいかないことも乗り越える！への展開」

○1回目「色を混ぜあわせる（パレット・絵の具） part 1」 2/5

・かせい組は絵の具2色「青・白」→全員分をグラデーションに並べて掲示



・もくせい組は絵の具3色「赤+その他3色」→混ぜた色ごとにチャート状に掲示

個人で、自分のパレットに色を好きな分量を取り、筆で混ぜ合わせていき、できた色を次々に画用紙に塗りました。

→自分たちでグラデーション（かせい組）、色ごとのチャート（もくせい組）に並べていきました。



【振り返り】もとの色が同じでも、分量が違えば同じ色にならないことへの気づきの導きになった。

○2回目「色を混ぜ合わせる（パレット・絵の具） part 2

2/10

・かせい組は絵の具3色「青・白+その他1色」→完成した自分の色にネーミング



・もくせい組は絵の具2色



「赤＋その他1色」→濃淡色づくりへの意見共有

個人で進め、できた色を画用紙に塗りました。

→「できた色と名付けた〇〇色」、「何色をどのくらい混ぜた」（かせい組）、「この色をもっと入れるともっと濃くなる」（もくせい組）などの一人ひとりの成果・気づきの共有を働きかけました。

【振り返り】成果・気づきの共有の働きかけが、幼児が互いに刺激を受け合いながら更なる試しを進めるきっかけとなった。

### 〇3回目「グループで目的を話し合っ決め、その色をつくる（絵の具・パレット）」2/20

・かせい組は2人でつくる色を相談しながら色づくり  
→完成した色にネーミング発表

・もくせい組はグループで保育室内の〇〇を決めてその色づくり→完成した色発表

→友達の気づきから刺激を受けたり、認め合ったりしてきた経験から、主張するばかりでなく、「相手の意見にも耳を傾け折り合う姿」、もとからある絵の具の色も「例えば、赤と緑で作り出した茶色を使おうとする姿」など、これまでの経験を生かしている姿がありました。

【振り返り】もとからある色を自分たちで作りだそうとする幼児に、さらにもっといろいろな色を作りだすことを支えたかった。



### 〇4回目「難しい・難しそうないろをつくってみる（絵の具・パレット）」2/27

・かせい組はオリンピックで憧れた「金銀銅」づくり

・もくせい組は前回うまくいグループのあった「黒・グレー」づくり

→どちらの組も「3回目」の掲示物から見えそうな3色を参考にしたり（かせい組）、惜しかった3色の共有を取り入れたり（もくせい組）、経験を存分に生かしながら取り組んでいました。

・かせい組は「金銀銅」によく似た色ができましたが、どうしても輝かないことに頭を悩ませた結果、作品をツヤツヤさせてもらった経験から、「ニス」を上から塗ることにし、さらに一步「金銀銅」に近づいたことを満足していました。



・もくせい組はうまくいかない経験をした「黒」について、絵本からヒントを得てもう一度挑戦、そして、完成したグレーに近い「銀」にオリンピックのメダルにもなぞらえて挑戦する日をそれぞれ設けて「いろいろな色味の黒」、かせい組にヒントをもらって「銀にかなり近い銀」もつくり達成感を味わいました。



【振り返り】ちょっとうまくいかなかったらすぐにあきらめていた幼児も、粘り強くいろいろ試してみるようになってきた。

試行錯誤が少しずつできるようになった。失敗をこわがるとか、正解をすぐ知りたがるという行動様式だった幼児にも、少しずつ変化が起きてきたように思う。

### ○5回目「今までにつくった色を見合おう！（冊子にまとめる）」3/2～10

これまでにつくった色を、リングで1人1冊にまとめて、クラス内で見合ったり、互いのクラスで見合ったり、発表し合ったりして、活動の成果を振り返りました。



【振り返り】2クラスとも、互いの取り組みを見合うことで、さらに気づきが広がった。



年長組すくわくプログラムを振り返って、5回目にもくせいのランダムなカラーチャートを興味深く見つめるかせい組、再度グラデーションに並び替える活動を行ったもくせい組の姿から、すくわくプログラム開始当初よりも、色のコントロールへの探究を繰り返し、深めていった結果、確実に幼児たちの「色への感度」が鋭くなっていることが伝わってきました。また、年長組進級当初から、失敗や指摘を受けることにすぐに心折れがちな幼児が散見されていましたが、「難しい色づくりがうまくいかないこと」を、仲間と悩み合い、時に笑い合い、ともに乗り越えようと考えを絞り出し合ってきた経験を、小学生になっても自分たちの宝（力）として生かして欲しいと願っています。



最後に、活動の方向性を見失いそうになっていた時にも、優しく導いてくださった白百合女子大学准教授 土橋久美子先生に参観、評価、助言をいただいたことに、一同深く感謝しています。教師としても、幼児同様、このプログラムでうまく導いていけなかった部分も糧とし、さらなる教材、保育方法を研究していきたいと思いました。